

短期大学の専門職に求められる ジェネリックスキルの育成と評価

大阪成蹊短期大学 学長

武蔵野 實



短期大学の教育

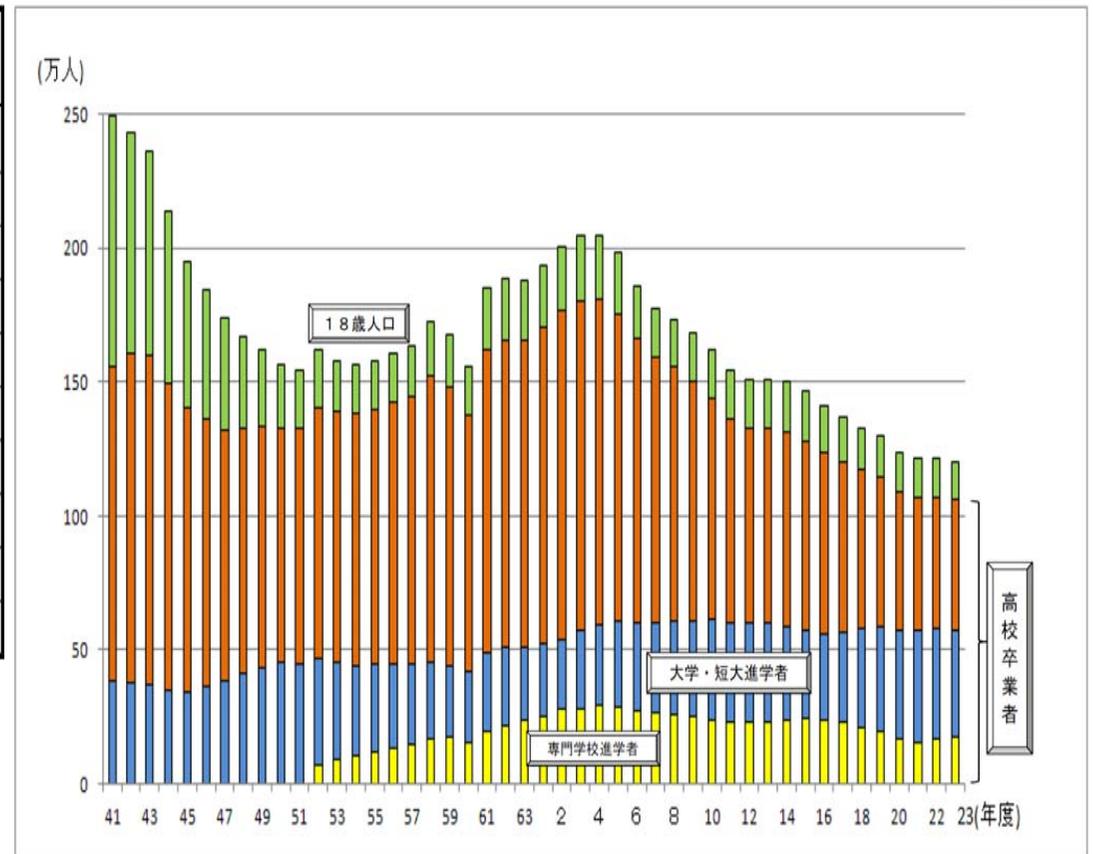
短期大学は修業年限2年又は3年の課程であり、「深く専門の学芸を教授研究し、職業又は实际生活に必要な能力を育成することを目的とする」（学校教育法第108条）

短期大学教育の特徴は、教養教育と専門教育の適度なバランスと、人間教育を基本にした実務教育、職業教育にある。担任制度や少人数制によって、資格取得から就職支援まできめ細かな一貫指導がなされ、整備されたキャンパスにおいて、学生相互の啓発・交流、多彩な課外活動によって人間性が育まれている。

18歳人口の減少と短大進学者数の絶対的減少

	大学・短大進学者(率)	専門学校進学者(率)
平成14年度	589,826 (44.9)	236,809 (18.0)
15	572,181 (44.6)	241,949 (18.9)
16	560,055 (45.3)	237,279 (19.2)
17	568,710 (47.3)	228,867 (19.0)
18	578,525 (49.4)	213,122 (18.2)
19	587,999 (51.2)	193,156 (16.8)
20	575,659 (52.9)	167,092 (15.3)
21	574,333 (53.9)	156,363 (14.7)
22	582,272 (54.3)	170,352 (15.9)
23	573,679 (53.9)	172,200 (16.2)

短期大学進学者数	
	人
平成13	130,246
18	90,740
19	84,596
20	77,339
21	73,163
22	72,047
23	68,432



短期大学で育成する人間像（日短協）

育成すべき人材像を「創造性と倫理性を備えた、真に社会の中心的役割を支える良質で勤勉な社会人であり、我が国の人材立国を支える中堅実務者」と新たに定義する。

その実現のために、教養科目と専門科目を有機的に連携させ、さらに問題解決能力や自己表現力など基礎的知力を高めつつ、全人的教育をより一層重視する。

大阪成蹊短期大学の教育目標

- 幅広く、深い教養と総合的な判断力を養い、建学の精神「桃李不言下自成蹊」とその実践規範「忠恕」にもとづいた豊かな人間性を育てるとともに、社会で活かせる実践力を身につけた専門職業人の育成に努める。
 - 「桃や李は何も言わないが、その美しい花や実にひかれて人があつまってくるので木の下には自然と小道（蹊）ができる」という意味。徳が高く、尊敬される人物のもとには徳を慕って人々が集まってくるというたとえ。司馬遷の『史記』に由来する。
 - 論語「夫子の道は忠恕のみ」に由来。「忠」は誠実、「恕」は思いやりを表わし、誠を尽くし人の立場になって考え行動するという意味。

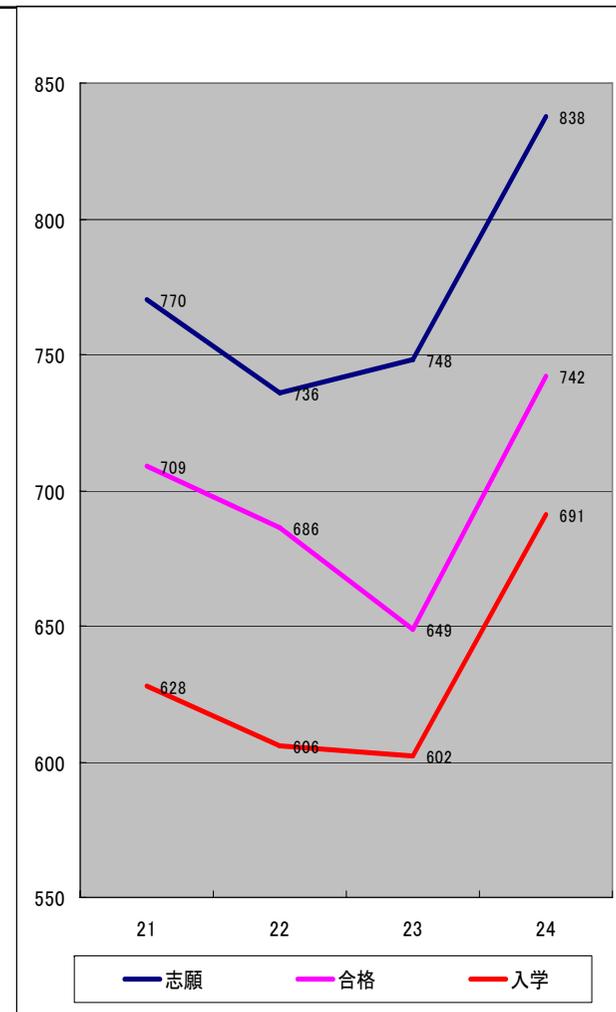
大阪成蹊短期大学

- 5つのフィールドと11の学び。共学で全国一の規模を誇る総合短期大学
- 1951年の創立以来60年、6万9千人もの人材を育成、輩出
- 現在でも、大阪府下短期大学入学者の約10人に1人が入学

児童教育学科	幼児教育学専攻	子どもたちの感性と成長を助ける専門技術を持った保育者を育てます
	初等教育学専攻	未来を担う子どもたちの心と生きる力を育む小学校、幼稚園の先生を育てます
総合生活学科	栄養コース	食育や生活習慣病予防への関心が高まる今、食を通じて健康づくりに貢献できる栄養士を育てます
	食物コース 調理クラス	調理に関する幅広い知識と高い技術を持った調理師、フードスペシャリストを育てます
	食物コース フードコーディネートクラス	調理技術や接客サービス、メニュー開発など、『食』に関する幅広い知識と技術を学び、フードビジネスのプロフェッショナルを育てます
総合生活学科	生活デザインコース アパレルデザインクラス	感性と自己表現のカタチである衣服などのデザイン力、企画力を磨きます
	生活デザインコース ファッションコーディネートクラス	身体デザインのコーディネート技術を持ったファッション界のスペシャリストを育てます
観光学科		観光に関する幅広い専門知識と技術で観光業界をさらに発展させるリーダーを育てます
経営会計学科		会計スキルと経営センス、プレゼンテーション力、コミュニケーション力のあるビジネスパーソンを育てます
創造文化学科	文化表現コース	さまざまな表現方法を学び、豊かな感性を持ち、自分を表現できる社会人を育てます
	パフォーマンスコース	創造文化の秘密にふれ、自らの身体や心の動きを探ることで、新しい自己を模索します

学園・短期大学の取り組み

- 「学園ブランド力向上運動」：学園規律の向上を目指した、挨拶の励行運動、身だしなみ向上運動、禁煙運動、校内美化運動、授業の遅刻・私語防止運動を実施。
- 強みである児童教育学科幼児教育学専攻の定員を平成24（2012）年度に150名から200名に増員、更に平成25（2013）年度240名への増員を申請中である。また、総合生活学科の栄養士資格取得の枠を平成24（2012）年度に80名から120名に増員し、近畿地区有数の総合短期大学の強みを生かした、幼教・調理・経営会計等の実学の一層の充実を図る。



豊かな人間性と社会で活かせる実践力

- 人間力（社会人基礎力）の育成（学園理事長の方針）
 - 人間関係力（成蹊ブランド力向上運動）
 - 強い体と努力する心
 - スキル向上と達成する充実感
 - 感動から生まれる気力・体力
 - 美しいものを見て感動する心

- 本学短大生の社会人基礎力の実態を知る
 - 伸ばしてやれる「力」、補ってやるべき「力」は何か
 - PROG（基礎力テスト）の実施

- ジェネリックスキルの評価
- リテラシー評価
 - 知識を活用し問題を解決する能力を、「情報収集力」「情報分析力」「課題発見力」「構想力」という、問題解決のプロセスに不可欠な4つの要素で測定・評価
- コンピテンシー評価
 - 社会に普遍的に求められる能力を「対人基礎力」「対自己基礎力」「対課題基礎力」の3つの力として評価
 - 対人基礎力の構成要素を「親和力」「協働力」「統率力」
 - 対自己基礎力の構成要素を「感情制御力」「自信創出力」「行動持続力」、
 - 対課題基礎力の構成要素を「課題発見力」「計画立案力」「実践力」として評価

PROG受験者について

短期大学1年

学科	コース等	人数(人)	比率
総合生活学科	生活デザインコース	44	6.5%
	調理クラス	60	8.9%
	フードコーディネータークラス	23	3.4%
	栄養コース	119	17.6%
児童教育学科	初等教育専攻	76	11.2%
	幼児教育専攻	201	29.7%
創造文化学科		34	5.0%
観光学科		75	11.1%
経営会計学科		44	6.5%
合計		676	100.0%

性別

性別	人数(人)	比率
男性	66	9.8%
女性	610	90.2%
合計	676	100.0%

受験日：2012年 4月



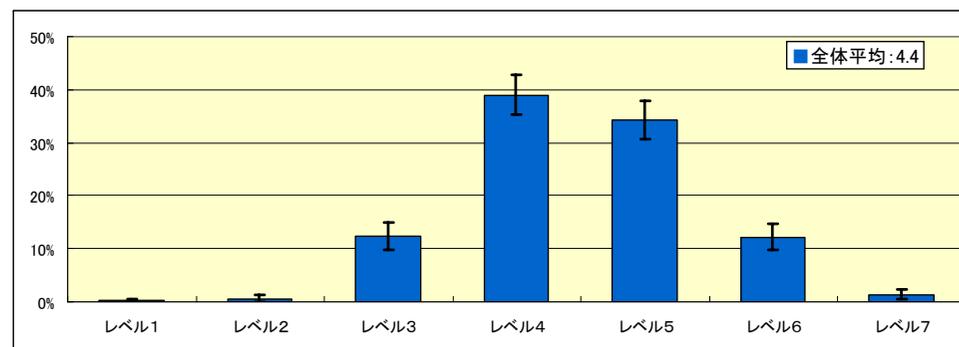
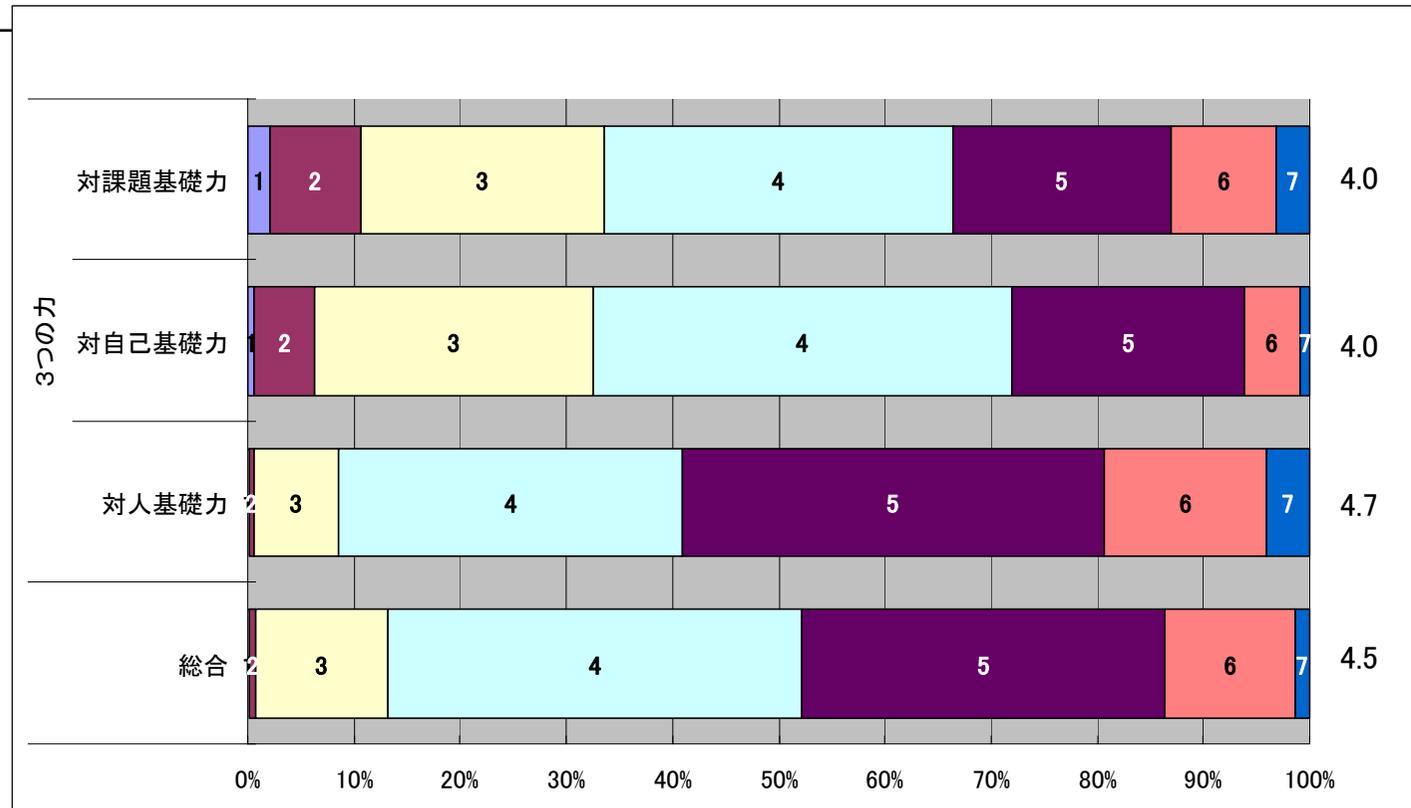
サンプリング誤差について

		10% or 90%	20% or 80%	30% or 70%	40% or 60%	50%
サンプル数	10,000	± 0.6%	± 0.8%	± 0.9%	± 1.0%	± 1.0%
	5,000	± 0.9%	± 1.1%	± 1.3%	± 1.4%	± 1.4%
	1,000	± 1.9%	± 2.5%	± 2.9%	± 3.1%	± 3.2%
	700	± 2.3%	± 3.0%	± 3.5%	± 3.7%	± 3.8%
	500	± 2.7%	± 3.6%	± 4.1%	± 4.4%	± 4.5%
	300	± 3.5%	± 4.6%	± 5.3%	± 5.7%	± 5.8%
	100	± 6.0%	± 8.0%	± 9.2%	± 9.8%	± 10.0%

(注) 上表の定義式は $2 \times \text{SQR}((1-P) \times P/n)$

n=サンプル数(標本数)、P=回答比率

コンピテンシーレベル評価



専門職とのコンピテンシー比較

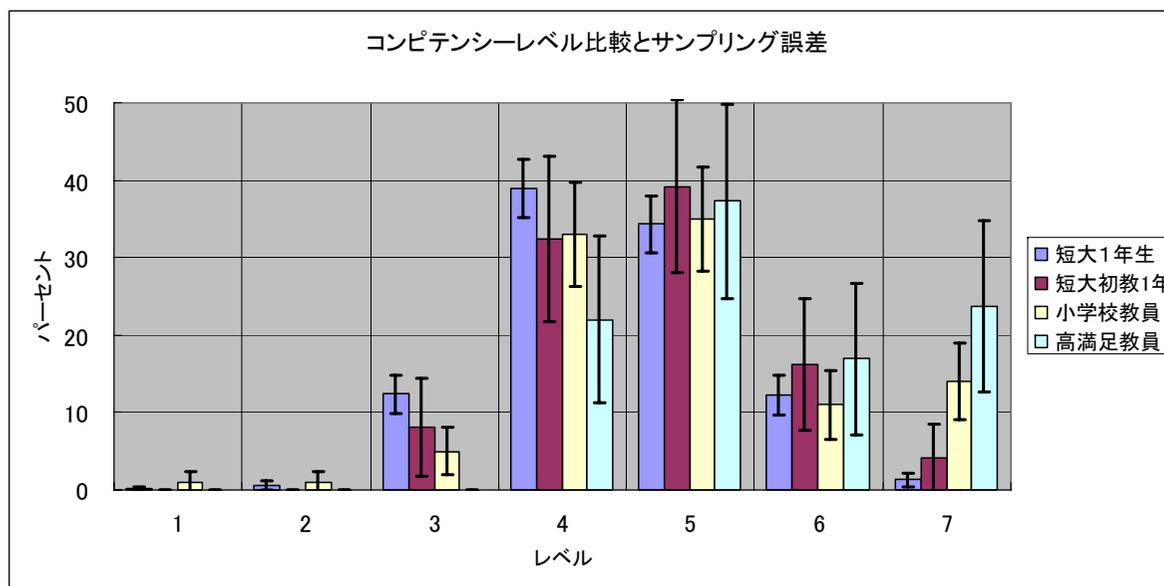
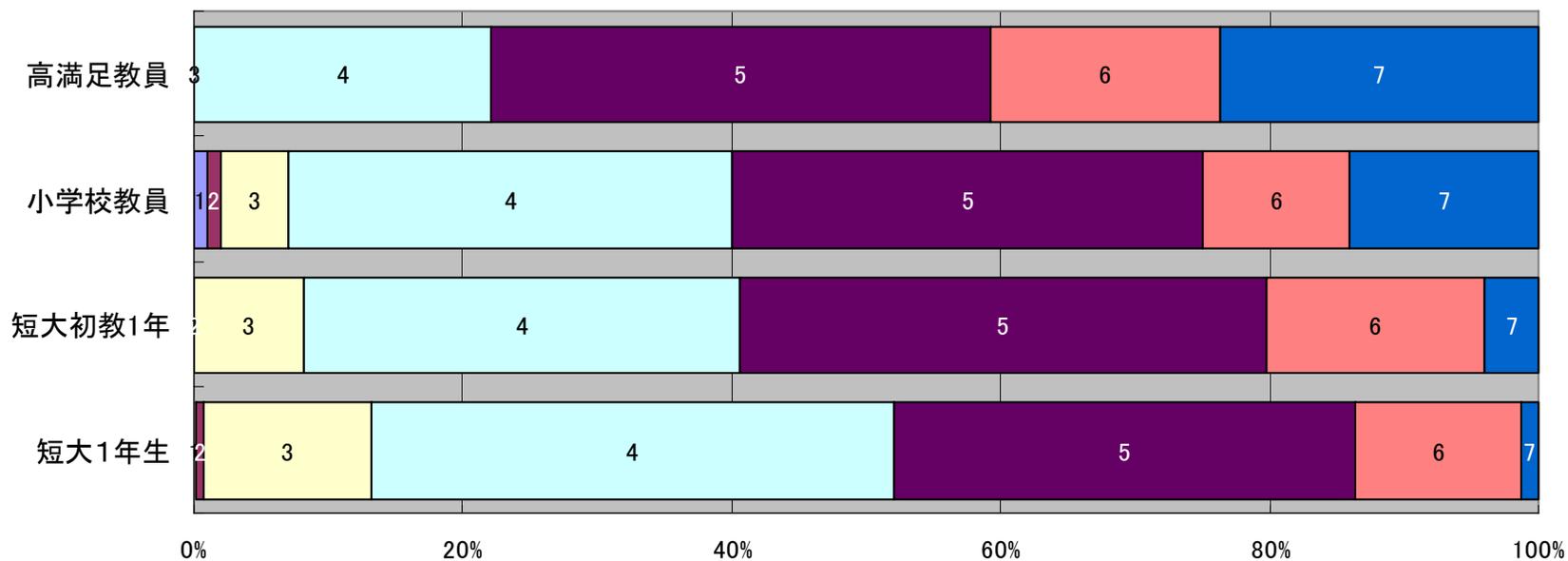
- 小学校教諭と初等教育学専攻1年生
- 保育専門職（幼稚園教諭・保育士）と幼児教育学専攻1年生

比較対象者とサンプリング誤差

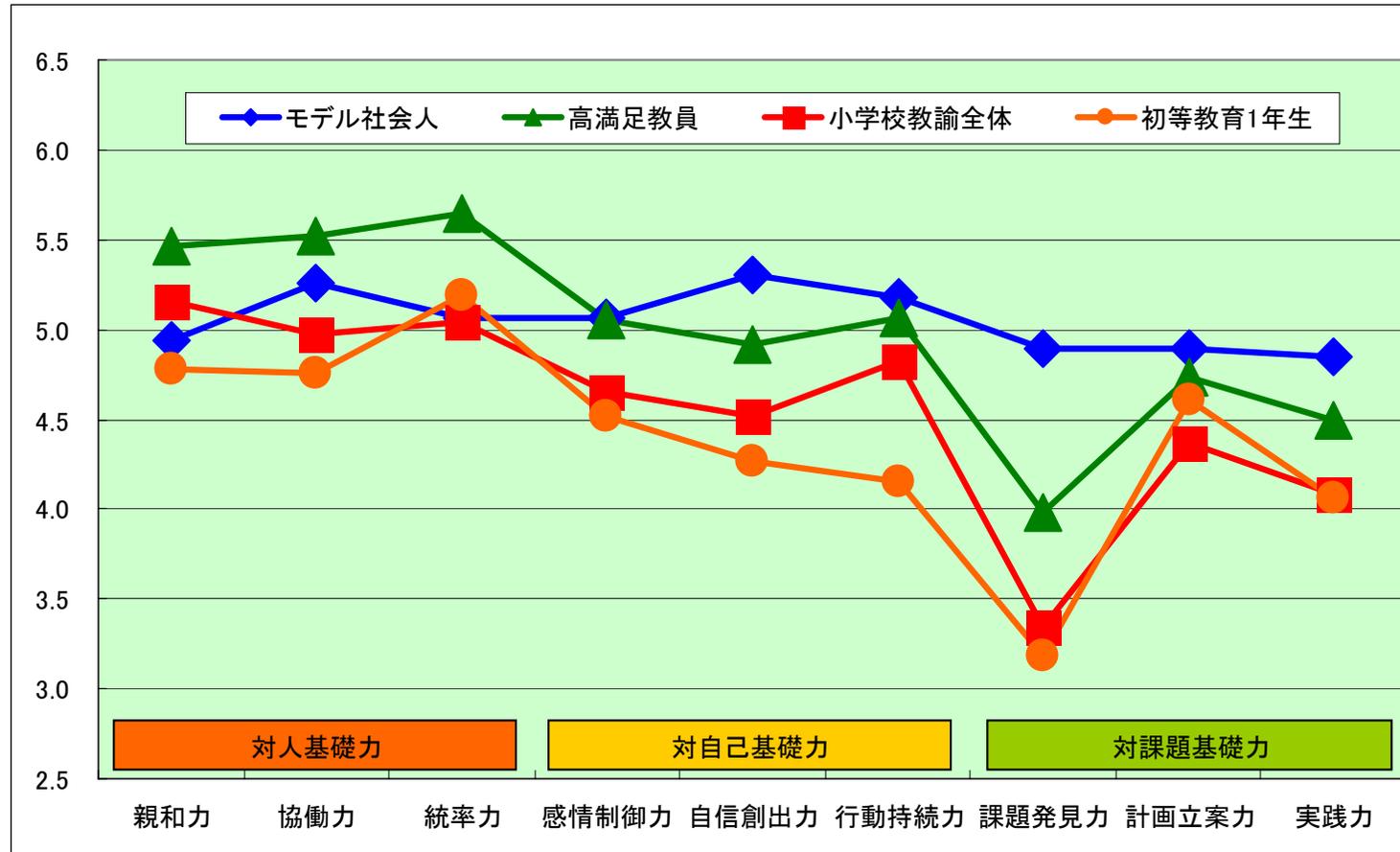
（専門職に関するデータはリアセックの調査による）

	サンプル数	最小値 (1人)	最大値 -50%
短大1年生全体	676	± 0.3 %	± 3.8 %
幼児教育学専攻	201	± 1.0 %	± 7.1 %
初等教育学専攻	76	± 2.6 %	± 11.5 %
小学校教員	200	± 1.0 %	± 7.1 %
小学校満足教員	59	± 3.4 %	± 13.0 %
保育従事者	77	± 2.6 %	± 11.4 %
保育従事満足者	18	± 10.8 %	± 23.6 %

小学校教諭との比較コンピテンシーレベル評価（全体）



コンピテンシーレベル平均値の比較

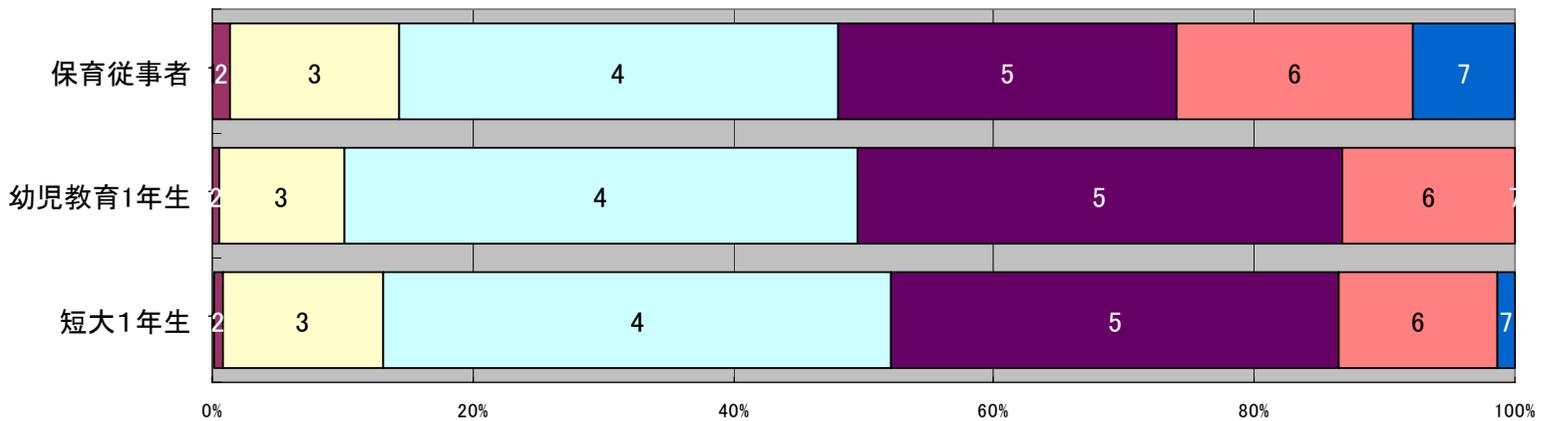


小学校教員とのコンピテンシーレベル比較

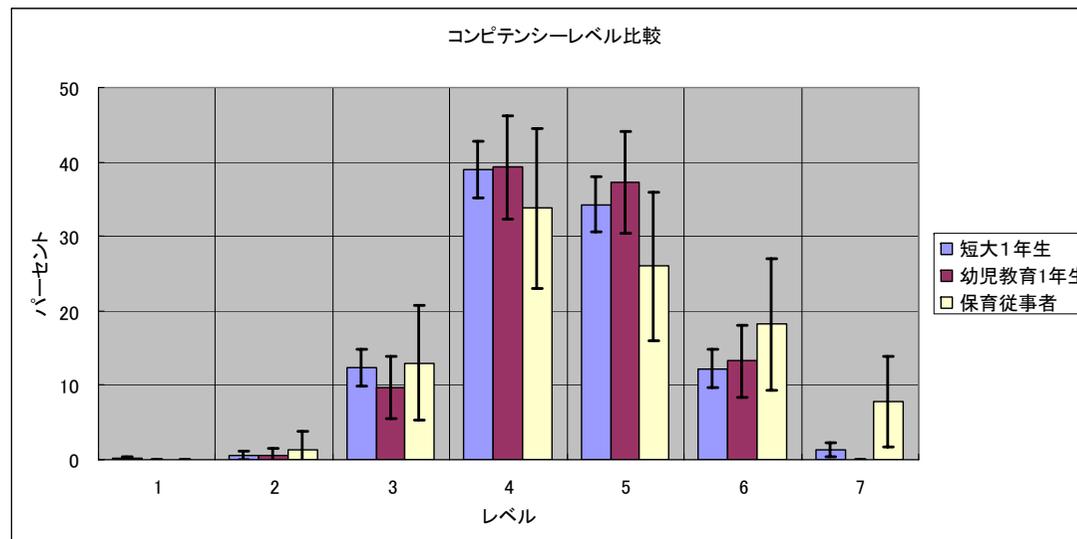
- 高満足度小学校教員と初等教育1年生との比較
 - レベル7の差異は顕著であり10%以上とりわけ「対人基礎力（大分類要素）」の差は大きい
 - 高レベル（6,7）での差異は「対人基礎力」、「対自己基礎力」とも大、中分類要素では「協働力」、「自信創出力」の差異が大きい
 - 低レベル（1,2）では「対課題基礎力」が差が大、中分類要素では「感情制御力」、「行動持続力」、「課題発見力」、「実践力」の差異が大
- 小学校教員と初等教育1年生との比較
 - 高レベル（6,7）では「対人基礎力」、「対自己基礎力」とも差異が見られる
 - 中分類要素では「親和力」、「行動持続力」の差異が大きい
 - 低レベル（1,2）では「行動持続力」が差異が大

保育従事者とのコンピテンシーレベル比較

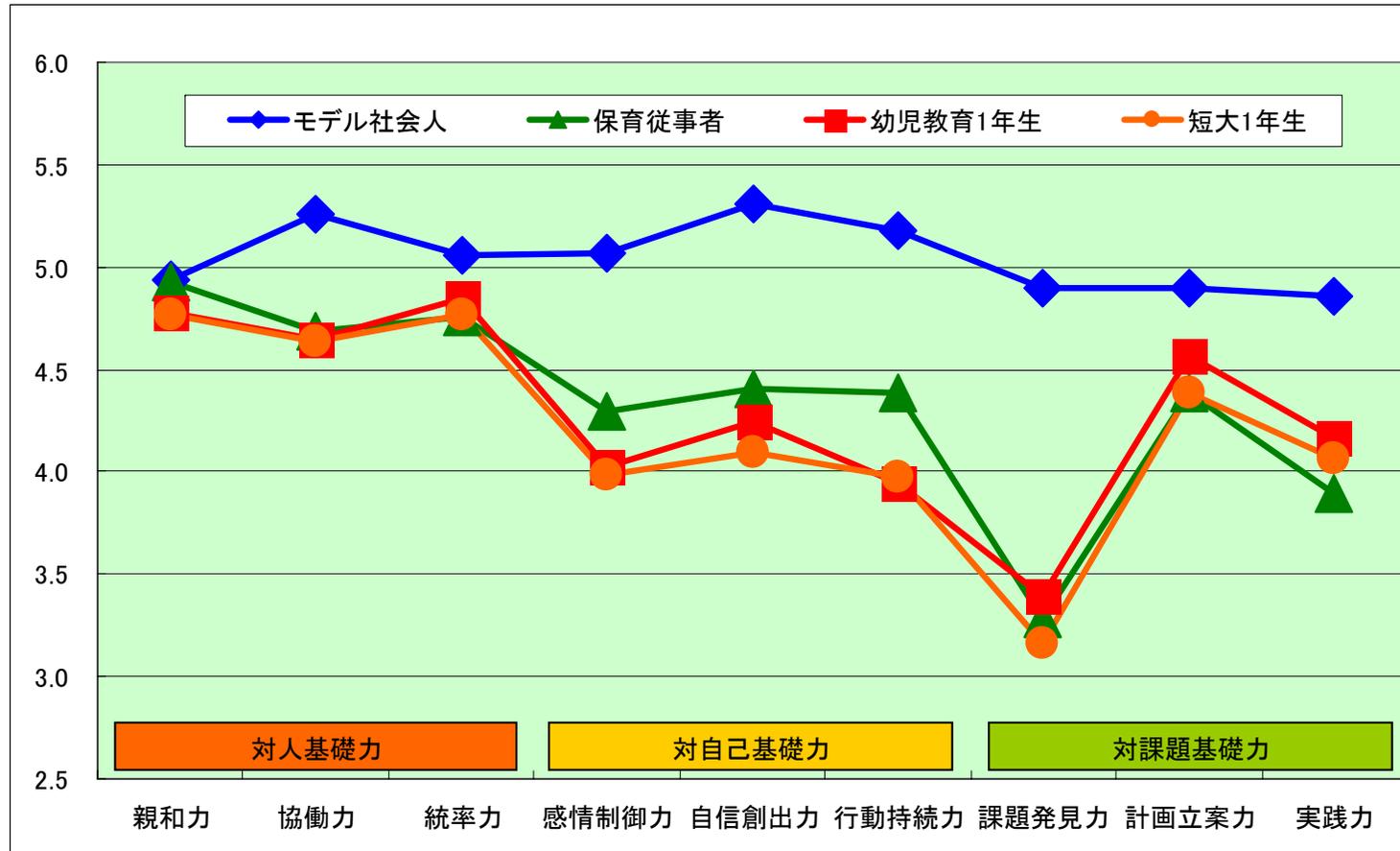
コンピテンシーレベル評価(全体)



コンピテンシーレベル比較



コンピテンシーレベル平均値の比較



小学校教員とのコンピテンシーレベル比較

- 保育従事者と幼児教育1年生との差異
 - レベル7の差異は「親和力」に見られる
 - 高レベル（6,7）での差異は「対人基礎力」が大
 - 中分類要素では「感情制御力」、「行動持続力」の差異が大きい
- 保育従事者と短大1年生との差異
 - レベル（6,7）での差異は「対人基礎力」が大
 - 中分類要素では「自信創出力」、「行動持続力」の差異が大きい

まとめに代えて

- PROG（基礎力テスト）による短期大学生の全体的特長の把握
- リテラシー（基礎的学力）の育成
- 対人基礎力（親和力等）を生かした学習への参加
- 「自信創出力」「行動持続力」の涵養
- リテラシーとともに「課題発見力」を
- 最も肝要なことは個々の学生の特性に応じた緻密な指導